

霞城

第20普通科連隊広報紙 発行所/山形県防衛協会

第20普通科連隊ホームページアドレス
https://www.mod.go.jp/gsd/f/neae/6d/unit_hp/20i_hp/index.html

第20普通科連隊 検索

KAJYŌ



隊区担当中隊

- 第2中隊
- 第1中隊
- 重迫撃砲中隊
- 第3中隊
- 第4中隊



No.708



編成完結式 連隊長に敬礼

20連隊最大の任務を完遂 「令和3年度第2次師団訓練検閲」を受閲



出陣式における連隊長(荒木1佐)説示(令和3年度第2次師団訓練検閲出陣式の写真)

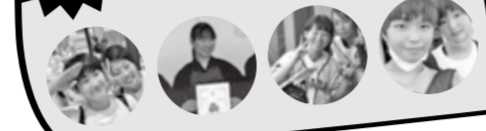
Contents

- 2 ページ
 - 20連隊最大の任務を完遂
「令和3年度第2次師団訓練検閲」を受閲
- 3 ページ
 - それぞれの特技を修得し、中隊配置
「令和3年度新隊員特技課程及び
第17期一般陸曹候補生課程後期教育修了式」
- 4 ページ
 - LadyGo!プロジェクト
普通科中隊配置女性自衛官を紹介
 - 各種表彰
 - 定年退官者紹介
 - 11月行事予定

2021
October
10

令和三年十一月十六日発行 発行所/山形県防衛協会 印刷/藤庄印刷株式会社

Lady Go! プロジェクト 20連隊65年の 歴史を塗り替えた 初 普通科中隊配置、 女性自衛官を紹介



Lady GO!プロジェクト 女性自衛官紹介! 「第1中隊・第3中隊に女性自衛官が配置」

連隊は女性が活躍できる基盤を整えるために、昨年度を通し女性活躍推進委員会を計4回実施し、「キャリアプラン(補職トラック)についての認識統一」「仕事と育児の両立」「女性活躍推進の背景」「女性自衛官の勤務・生活環境の基盤」など様々な議題で討論を重ね、令和3年度から女性活躍推進の一連の活動を「Lady Go!プロジェクト」と名付けた。

「Lady Go!プロジェクト」の一環として男性隊員との垣根の撤廃、女性自衛官の新規補職への配置等を具現化するべく、各中隊は普通科中隊への女性自衛官曹士隊員配置のため、戦力化要領、受け入れ基盤の整備についての検討など計画的に準備を進めた。9月17日(金)、連隊65年の歴史の中で初めて普通科中隊(第1中隊2名、第3中隊2名)に女性自衛官が配置され、「Lady Go!プロジェクト」は大きな一歩を踏み出した。

そこで、「女性自衛官の活躍をもっと知ってほしい!」という一心で広報室が全力を上げて調査を行った。

第1中隊へ配置

第1中隊 齋藤 葵 1士



右が本人 左:本部管理中隊風呂1士

第1中隊追撃砲中隊に配置された齋藤1士は、山形県寒河江市出身。学生時代は東海大学山形高等学校の女子バスケットボール部に所属し、全国大会出場を目指し活動に打ち込むスポーツウーマンであり、2年生の夏には県大会2位、3年生の冬には県大会3位と常に上位に食い込む強豪校でプレーをしていた(もちろんスタメン出場)。休みの日には家にあるリングでシュート練習をする程バスケットボールが大好きな齋藤1士。

そんな彼女は、災害派遣で活躍する自衛官の姿に感銘を受け、「私も人のために活躍できる仕事かしたい!」と入隊を決意。書店から過去問集を購入し、四六時中勉強に励み、見事一般陸曹候補生の試験に合格。令和3年4月に朝霞駐屯地に所在する女性自衛官教育隊に入隊。その後神町駐屯地において後期教育に参加、追撃砲中隊で81M追撃砲について学び現在に至る。

令和3年度第2次師団訓練検閲には弾薬手として参加し、同期の笠原2士と協力して弾薬置場の構築に取り組んだほか、積極的に分隊長の掌握下に入り、小隊の任務達成に貢献するなど輝かしい活躍を見せた。

齋藤1士は引き続き訓練に邁進し、「人のために一生懸命頑張れるカッコイイ女性自衛官になりたい!」とコメントしていた。

第1中隊 笠原 のか 2士



中央が本人

第1中隊追撃砲中隊に配置された笠原2士は、山形県最上町出身。学生時代は神室産業高等学校の剣道部に所属し、夏の地区総体では個人戦3位與大会出場など最上地区では腕利きの剣士で、真夏の剣道場で40分間の打ち込み練習をした経験がある忍耐強い性格の持ち主である。

笠原2士は小学2年生の時に東日本大震災を経験し、その際に現地で活躍する自衛官の姿をメディアで拝見し、「私もいつか人の役に立てる仕事かしたい!」と考えようになったそう。採用試験を受ける際には自ら自衛隊山形地方協力本部新庄地域事務所に足を運び面接練習に取り組み、見事自衛官候補生に合格。令和3年4月多賀城駐屯地119教育大隊341中隊に入隊、3ヶ月にわたる基礎的な教育を終え、第20普通科連隊新隊員教育隊が実施する特技課程追撃砲に参加し、現在に至る。

令和3年度第2次師団訓練検閲には弾薬手として参加し、同期の齋藤1士と協力しながら40kmを超える徒步行進を完歩、整備と陣地構築に取り組んだほか、積極的に警戒任務にあたり、小隊の任務達成に貢献した。

笠原2士は、「誰にでも優しくできる女性自衛官になること」を目標にこれからも頑張りたいとコメントしていた。



右が本人

第3中隊へ配置

第3中隊 海老名 美咲 2士



中央が本人

第3中隊追撃砲中隊に配置された海老名2士は山形県山形市出身。学生時代は山形商業高等学校の野球部に所属し、マネージャーとしてスコア記入や場内アナウンス、グラウンド整備、洗濯、補食用の米研ぎなど、時には選手以上の仕事量をこなし、持ち前の明るさで選手たちを支える存在だった。

そんな彼女の祖父は第6施設大隊に所属する自衛官だったそうで、幼少期には祖父の部屋に飾ってある沢山の賞状を見て「自衛官って凄い、カッコいい!」と興味を持ち、いつの頃からか入隊を志すようになっていった。自衛隊に対し「怖い上司」「毎日辛い訓練」とイメージを抱きつつも恐る恐る入隊、自衛官候補生として多賀城駐屯地で前期教育を受け、引き続き第20普通科連隊新隊員教育隊の特技課程に参加、約半年間の教育を終えた海老名2士は「優しく丁寧に指導して下さる要員の方々」「段階的に知識・技術を学べる訓練」にギャップを感じ、驚きを隠せなかったと同時に安心して訓練に取り組むことが出来たと語っていた。

令和3年度第2次師団訓練検閲には中隊本部無線通信手として参加し、約40kmの徒步行進を見事完歩。森2士と協力して中隊指揮所の開設など真摯に取り組む、中隊の任務達成に貢献した。

海老名2士は、「周りを明るく出来るカッコイイ女性自衛官になりたい!」「森2士と協力して訓練をこなしていきたい!」と今後の目標を元気に述べていた。

第3中隊 森 美久 2士



右が本人

第3中隊追撃砲中隊に配置された森2士は、山形県鶴岡市出身。鶴岡東高等学校卒業後、約3年間にわたり実家の農業を手伝っており、お米や枝豆の栽培、トラクターに乗り畑を耕すなど一生懸命に取り組む農業女子だった。

森2士はテレビ番組「沸騰ワード10」の自衛隊特集や、元自衛官YouTuber「トッカク」の自衛隊あるあるを視聴し、自衛隊に興味を持ち、自ら自衛隊山形地方協力本部鶴岡出張所に足を運び「自衛官になりたいです!」と伝えたそう。入隊後は多賀城駐屯地で前期教育を受け、神町駐屯地で特技課程追撃砲に参加した。

教育時、特に35km徒步行進訓練が印象に残っているインタビューに答えてくれた森2士、その理由は同期みんなで行進する充実感、完歩した時の達成感がとても楽しかったこと。そんな森2士は令和3年度第2次師団訓練検閲に中隊本部無線通信手として参加し、約40kmの道のりを見事完歩。真夜中の行進で疲労と睡魔が襲うなか同期の海老名2士と声を掛け合いながら真摯に取り組んでいた。また中隊指揮所及び車両の偽装、土のうの作成、警戒任務等、積極的に中隊本部を支えた。

森2士は、「更に自衛官としての知識を深め、信頼される女性自衛官になりたい!」と述べていたほか、「様々な教育訓練に参加したり、計画的に貯金をして私有車を購入したい!」と笑顔で今後の目標を語っていた。



右が本人

それぞれの特技を修得し、中隊配置 令和3年度新隊員特技課程及び 第17期一般陸曹候補生課程 後期教育修了式



執行者(連隊長:荒木1佐)に敬礼



執行者訓示



教育間成績優秀者表彰

9月17日(金)教育隊教場において「令和3年度新隊員特技課程及び第17期一般陸曹候補生課程後期教育修了式」(執行者:連隊長 荒木1佐)を実施した。

式には教育を終了した軽火器区隊40名、迫撃砲区隊18名の計58名が参加し、各員階級及び各中隊長が臨席した。新隊員を代表して軽火器2区隊 小島清雅(おじま きよまさ)2上等宮城県大崎

市出身が教育修了申告及び中隊配置申告を行った。引き続き本教育における成績優秀者に対して褒賞状が授与された。

執行者は式辞において「第一線部隊である各中隊へ配属され、先輩の隊員とともに様々な訓練等を実施し、自己の訓練に継続して励んでほしい」と述べ、新隊員の今後の活躍を祈念した。

3カ月の教育を終えた新隊員たちの表情は、自信に満ちあふれ、「中隊配置後はいち早く中隊の雰囲気慣れ、教育で学んだことを実践したい」と決意を新たにしていった。

また今回、第1中隊及び第3中隊の迫撃砲小隊に普通科中隊初となる女性自衛官が配置された。彼女たちの先駆者としての活躍が期待される。

20連隊最大の「令和3年度第2次師団訓練検閲」を受閲 任務を完遂



OB会長(村山勝明様)より激励の御言葉を頂き、士気奮闘!



段列地域において補給小隊が給油を統制



力強く掩体構築に取り組み女性自衛官



作戦会議



連隊指揮所で通信業務を実施



施設作業小隊が重機を運用



隠城号外を作成し各中隊の士気高揚を図る広報室



01式軽対戦車誘導弾による対機甲戦闘



広大な範囲に通信網を構成する通信小隊



連隊後方指揮所を指揮する副連隊長(浅野2佐)



資材を使用し堅固な陣地を構築

「令和3年度第2次師団訓練検閲」を受閲



隊容検査

隊容検査



前進命令の下达

10月18日(月)から24日(日)の間、王城寺原演習場(宮城県及び周辺地域において「令和3年度第2次師団訓練検閲」を受閲した。

本訓練検閲は第6師団長(奥頭陸特)の統裁のもと、課目「徒步行進及び「師団から独立して行動する増強普通科連隊の防衛における一連の行動」で実施され、配属・支援部隊として東北方面特科連隊、第6後方支援連隊、第6高射特科大隊、第6施設大隊が参加した。

訓練検閲受閲に先立ち15日(金)、連隊OB会村山勝明会長が参列する中、駐屯地営庭において出陣式及び隊容検査が行われた。村山会長からは、2年に1度の最大の訓練、今までの培ってきた能力を発揮するため、目的意識をもって取り組み、連隊長、中隊長、小隊長の統制に従い頑張ってもらいたい。と激励のお言葉を頂き、隊員一人ひとりの士気が高まった。また連隊長は説示にて「凡事徹底・唯一無二」情報と火力と障害の連携、「安全管理及び健康管理の徹底」の3点を要望し、「連隊一丸となり任務を達成し、全員無事に駐屯地に帰還することを期待する」と述べた。

18日(月)0830には編成完結式が行われ、連隊長は統裁官(第6師団長)に対し編成完結報告を実施した。引き続き連隊長より前進命令が下達され、1500先頭の情報小隊の前進開始を皮切りに徒步行進の状況が開始された。夕方から翌早朝にかけて演習場周約20km、演習場内約20kmの約40kmを行進。真夜中には吐息が白く染まるほどの低温が低下する厳しい環境下だったが、各隊員は行進計画に基づき速度を維持し、隊形の保持、無声指揮に努めるとともに、企図の秘匿、痕跡の除去を図りつつ、起伏の激しい経路を整齊と行進し、集結地を占領した。その後偵察、構想示達に引き続き速やかに防衛準備に着手し、各級指揮官は主射



敵の遊撃部隊への対処 (ざりろに対処適切に処置)

撃方向や偽装などに着意するとともに、作業工程表に基づき築城を指導した。

防衛準備期間、時折雨がちたつく天候で各中隊の防衛地域は広範囲にわたり泥濘化しており、通常より重い土質やぬかるむ足場など非常に厳しい状況であったが、任務を完遂するため黙々と築城に取り組みるとともに、掩蔽材などの重量物を運搬する際には互いに声を掛け合いながら確実な安全管理のもと作業が進められた。また、9月に行われた連隊練成訓練の教訓を活かし、懸命に防衛準備を継続、敵の地上偵察のみならず、偵察衛星や航空偵察による情報活動から陣地地域の暴露を防止しつつ、生き残る陣地の構築を追求した。

引き続き防衛戦では、情報小隊は構成した戦場監視網によって敵情を発見すると速やかに砲迫火力を要求するなど主動的な防衛戦闘を実施し、対戦車小隊による中距離多目的誘導弾や重迫撃砲中隊及び特科部隊による砲迫火力で敵戦車等を撃破した。前方地域では第4中隊が敵の侵攻を遅延させ警戒と後退、第1中隊及び第2中隊の主戦闘地域では障害を処理して侵攻する敵装甲車等に対し、集中的に火力を発揮して我が損耗を局限しつつ防衛戦闘を継続、縦深の第3中隊、そして本部管理中隊の施設作業小隊、通信小隊及び衛生小隊もそれぞれ機能を遺憾なく発揮、全隊員が一致団結して任務完遂のため強靭不屈な敢闘精神を呈し、陣地を守り抜き状況は終了。連隊及び配属・支援部隊は見事与えられた任務を完遂した。

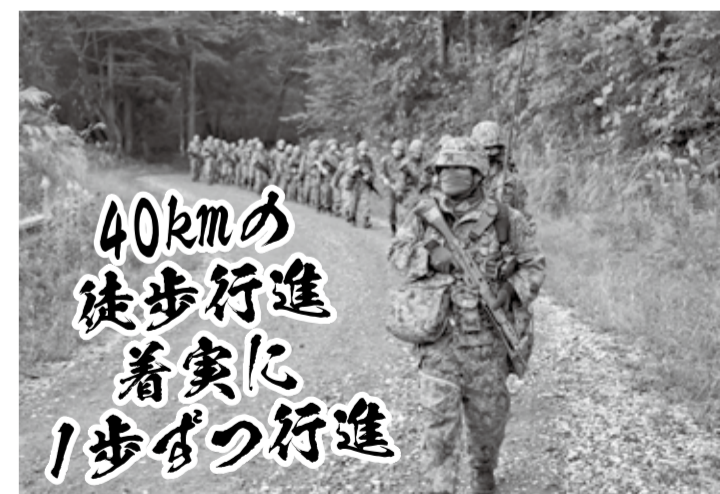
26日(火)には連隊の全隊員が参加し、統裁官から総評を受けた。連隊は、本訓練検閲における教訓を分析・反映し、部隊の更なる精進を図るとともに、連隊長要事項である「凡事徹底」「唯一無二」を再認識し、具現化すべく更に邁進していく。



最先任上級曹長(松本准尉)による現地指導



敵の陣地への侵入を防ぐ障害の構成



40kmの徒步行進 着実に1歩ずつ行進